

琉球群島に於ける 古賀氏の功績

(其六)

▲列島に於ける産業經營 斯くて総ての設計工事進捗するや同列島に於ける産業の經營に従事したるが先づ尖閣列島に於ける産業經營の大要は鳥毛の採集、水禽の刺製、鱈魚、海産、貝殻、鼈甲の漁獲採集、鱈魚鱈節の製造、植林、樟及び松杉柑桔類の栽培、開墾及び穀菜の栽培、汽船の購入、珊瑚採集、鳥糞の製造、牧畜、養蠶、鐘錶製造、燐礦鳥糞の採掘等にして其の中鳥毛及び鱈魚、海産、貝殻、鼈甲の採取は明治十七年列島探検後より着手し來り鱈の漁撈も夙に行ひ來れる所なるも明治三十八年始めて鱈船の新造をなすまでは帆舟の延繩にて小規模の漁撈をなせしに過ぎざりき

▲鱈漁の有望 然るに同列島に於ける鱈漁の有望なること第一は食餌の潤澤なること鱈の魚群が極めて近岸にまで來集するにより必ずしも遠洋に出漁するの要なきと孰れも天興の好適地なるに由り從來の規模を擴張する爲め三十八年初めて鱈船三艘を建造して送遣せり加之斯業に熟練なる漁夫及び鱈節製造人數十名を宮崎縣下より雇入れ其の業に従はしめたり而して其の成績は頗る見るべきものありしが不幸にして半途激烈なる暴風に遭遇し漁船は三艘共に破碎せられて多大の損害を被りたるも乗組員は幸に皆身を以て逃がるを得たるを以て翌三十九年再び鱈船五艘を新造し爾來一層の好成績を取ひるを得たり

▲水禽の刺製 又水禽の刺製は歐米諸國の婦人帽子裝飾用として充分の需用ある事を見込み之れに従事せんとしたるも製鳥の職人を得る事容易ならず屢々東京横濱其の他各地にて之を求めたるも得る能はず斯業者に問合すも猜忌の念を以て之を迎へ秘して教へず爲めに心ならずも放棄したりしが三十六年上京し種々苦心の末漸く十數名の職人を得て翌三十七年「アイサン」「カワヲドリ」其の他の雜禽を刺製又は毛羽として初めて横濱神戸の外商に賣込みたるに望外の好評を博し爾來年々輸出増加の一方にして

去る三十九年の如きは二十餘萬羽を輸出し四十年度に於其は約其の二倍以上の取引を行ふに至りぬ

▲造林及び開墾 同列島の風土が樟樹栽培の好適地なるが故に明治三十九年十一月臺灣總督府附屬試驗場より樟苗三万本を購入し釣魚島、久場島の二島へ植付けしに發育大に良好なるを以て爾後年々植付けを行ひ以て造林の目的を達しつゝあり尙同列島に於ける移民の數多きを加ふると共に開墾の事業は益々忽諾に附すべからずとして少からざる實力を傾注したる結果現今開墾の地積六十餘町歩に達するに至れり而して栽植物の種類は重に雜穀、甘蔗、野菜類等にして以て移民の給養に資しつゝあるが目下同移民の總數は二百四十八名の多數に達し戸數九十九戸に及びべり而して右開墾の地積を戸數に割當つれば一戸に付六反歩餘、一人に付二反四畝歩の平均に相當し曠昔荒蕪たりし無人の列島は今や次第に殷賑に赴きつゝあり